

## いよいよ「淡海なし」「淡海ぶどう」を販売開始！

今夏、津田干拓地果樹生産組合(近江八幡市)の「淡海なし」「淡海ぶどう」を、初めて販売しました。

なし部会の4名、ぶどう部会の5名は、昨年より県の専門家派遣事業を活用し、専門家、普及指導員とともに商品コンセプトや販売方法、出荷・品質基準など議論を重ねるとともに、ブランド化を図るため、「淡海なし」「淡海ぶどう」を商標登録しました。8月には地元の平和堂や農産物直売所「きてか～な」で試食・販売イベントを開催し、部会員自ら店頭で接客することで商品に対する消費者の反応を確認しました。

まだまだ、若木が多く販売量は少ないですが、令和12年の成園化を目指して、技術力・販売力を高めようと関係機関とともに取り組んでいます。



## 酒米新品種のデビューまであとわずか！

近年、気候変動による温暖化が進行している影響から、既存の酒米品種の収量、品質が不安定になっています。そのため、生産者や酒造関係者より高温に強い酒米の新品種について早期普及を求める声が出ていました。

県では平成29年度より、温暖化に対応した新品種の開発を進め、多くの系統の中から有望な系統「滋賀酒85号」が選定され、当課では、生産者やJA等と連携しながら肥培管理等の実証を行ってきました。

「滋賀酒85号」は「吟吹雪」を親に持ち、暑さに強く、「吟吹雪」よりも高い収量性が確認されています。酒質は「吟吹雪」に近く「口当たりがよくまろやか」という評価も受けています。

「滋賀酒85号」の品種名は、県酒造組合がユーザーである蔵元から募集し、県では品種登録の申請に向けて準備を進めています。令和8年は種子量が限られ、県内で10haに限った栽培となりますが、酒米の生産安定や供給改善につなげるため、令和9年からの本格生産に向けて、関係機関と連携して支援、普及を進めていきます。

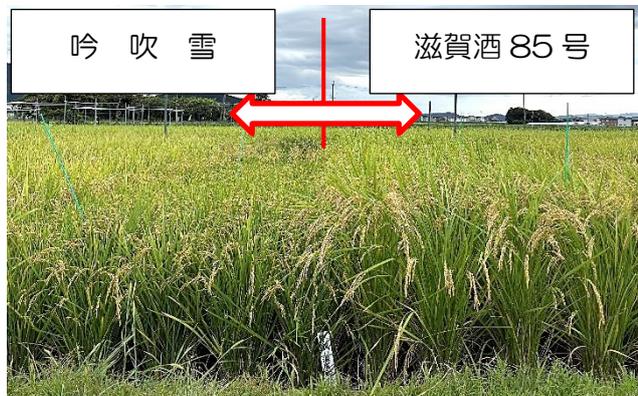


写真 高温下で短稈化する吟吹雪との比較